

2月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 15.0km～21.0km 管轄出張所:岡崎・安城出張所
実施日	令和 5 年 2 月 5 日	実施区間	15.0km ～21.0km (左岸)

川の土砂を取り除く掘削工事 詳細な工事説明板 設置

今回は、渡橋から左岸堤防に入り、美矢井橋方面に進みました。美矢井橋の手前付近の河原には、イラスト入りの大きな工事説明看板がありました(①)。この付近の川の土砂を取り除く掘削工事を進めているということです。小学生にも理解できる看板でした。

近くには大型の重機械車が置いてありました。12月の視察で対岸から見えたのが、この重機でした(②)。

大正期の大嘗祭の記念碑 かつて3万人が集う

今まで、素通りしていたのですが、上記の左岸堤防に石碑があります(③左)。改めて確かめると、大正期の大嘗祭にかかわる「抜穂式」の記念に建てられたものようです。ここ矢作川大聖寺河原が使用され、式当日は3万人近い見学者が集ったという記述がありました。矢作川の存在の大きさを物語るエピソードです。

紅吉野に小さな芽が

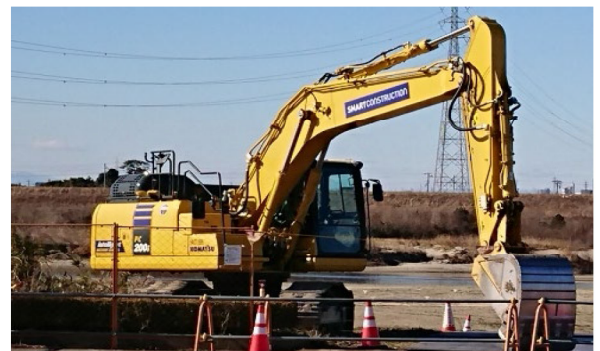
そこから、上流に歩くと紅吉野の並木道があります(③右)。よく見ると、枝の先に小さな新芽のようなものが見られました。「春遠からじ」という気分になります。

水量がさらに低下 新幹線橋梁下で視認

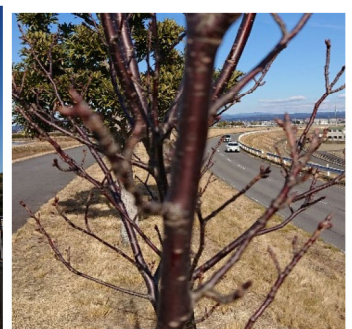
新幹線の橋梁下で、矢作川の水量を見ると、先月よりもさらに下がっているのが分かります。太い柱の下を支えている円形部分がくっきりと水面上に出ています(④)。この冬の時期は雨も少なく、夏に比べると河原の様子もずいぶん違います。定点観測をしていると、川の表情の変化がよく分かります。



① 美矢井橋付近で河道掘削工事(18.4Km)



② 工事で使用される重機械車(同上)



③大嘗祭記念碑(左) 紅吉野に小さな芽(右)



④ 先月よりさらに水量が減った新幹線橋梁下